

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

定時制の課程である特性を生かし、地域の教育コミュニティへの参画と活性化を図り、自他の生命を大切にすることを育み、安全で安心な学びの場を提供する。また、夢や志を抱き、人生を切り拓くチカラを育成する。

- 1 生涯にわたって豊かな生活を築くため「思考力・判断力・表現力」を育み、個々のニーズに応じた教育を展開
- 2 自己肯定感、自他を思いやる人間性を育成し、互いに違いを認め合う共生社会の推進
- 3 地域社会に貢献できる多様な人材を、様々な体験的活動を通じ育成する

2 中期的目標

1 基礎基本の知識・技能の習得と生徒の進路実現

- (1) 社会の変化に対応した学習の形態を実施し、生徒の能力・適性・興味・関心に応じた授業展開を行う
- (2) アクティブ・ラーニング型の授業や体験活動等を導入し、総合学科としてのカリキュラムの充実を図る
- (3) 確かな学力を向上させる取組みを推進するため、思考過程を重視し、対話と主体性のある能力を育成する体制を強化する
- (4) 多様な生徒に対する進路選択のサポートを強化し、3年間をベースとしたキャリア教育の計画を明確にして充実を図る
- (5) 魅力ある学校を創り、欠席・遅刻等の改善をめざす

《成果指標：欠席者総数の減少 H28：6300人、H29：6200人、H30：6100人、H31：6000人》

2 豊かな人間性の育成と共生社会の推進（生徒自らが活気ある学校生活を送る）

- (1) 互いに違いを認め合う共生社会の推進に積極的に取り組み、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む
- (2) 学校生活全般の活性化を図り、心身ともに健やかに、人生を切り拓くチカラを育成する
- (3) あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける
- (4) S S W（スクール・ソーシャル・ワーカー）等外部機関の活用を通じ、生徒を主役に家庭・地域との連携を図る

※「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、平成 31 年度までに文部科学省が公表する平成 26 年度全国公立高等学校

定時制課程の中途退学率の 11.1%以下を目標とする。（中期的目標 1～4 の全てを通じて）《指標 H28：15%、H29：13%、H30：12%、H31：11%》

3 教職員人材育成と学校運営体制の再構築

- (1) 教職員の人材育成をベースに、チームワーク・ネットワーク等を駆使し「めざす学校像や目標の達成」に取り組む
- (2) 同僚性の向上をめざし、業務の効率化を見直し「ミドルアップ・ダウン型」の組織作りとミドルリーダーの育成
- (3) 各種委員会の再編と活性化を行い、必要に応じ役割を明示・円滑な校務運営を推進 《委員会構築 H29：3委員会の充実、H30：3委員会の発展》

＜3委員会：生徒サポートチーム、初任期育成チーム、ICT 充実委員会＞

4 開かれた学校づくりのための取組みを推進する

- (1) 地域との連携や地元中学校および保護者等への広報に努める（Web の活用等を工夫）
- (2) 地域とともに歩み、親しまれる学校づくりに努める
- (3) キャリア教育の充実と外部人材（キャリアコンサルタント）等の活用をベースに全教職員で対応し、希望する進路開拓を実現

《企業・進学先の訪問 H29:H30:H31 のそれぞれの卒業生に対し 1 回以上支援を継続し、定着指導を実施し共有》

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 昨年度との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己診断の調査項目について、「学校に対する意識や授業」「生徒指導に関するもの」「いじめへの取組み」などを、より具体的で精度の高いものに見直しを実施した。 昨年度との単純な比較はできないが、肯定的な意見については全体的に微減している。一方、「わからない」を選択するものが保護者では減少、生徒では増加している。 回答の分布についてグラフ化して公表しているが、分布について大きな変化は見られない。「生徒に寄り添う指導」、「部活動の指導」、「行事の評価」、「非常時の活動」で 3 者の傾向の一致が見られ、肯定的である。（「わからない」と回答を除くと肯定的回答が 6 割を超える。） 「いじめ」は有無から、対応についての評価に変更した。「わからない」が増加したものの、肯定的な意見に数値が偏っている。 <p>(2) 生徒と教員および保護者と教員の回答傾向の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「わからない」の選択が 3 割前後に達する項目があり、自己診断の実施方法・設問についての課題が感じられる。 「学校のきまり・指導」について 6 割程度の生徒・保護者が納得しているとするが、「きまりや校則をよく守っている」評価について 3 者で大きく評価が分かれている。 <p>(3) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に教員の自己評価について肯定的意見が微減しており、教員の同僚性をさらに高める取組みを進める必要性を感じる。 肯定的意見に分布が偏る傾向が全体的にみられるが、学校の活動について学校全体で共有できる仕組み作りさらなる工夫が必要である。併せて保護者や地域への広報を進め、さらに「開かれた学校づくり」をめざす。 	<p>第 1 回：6 月 9 日（金） ー授業見学と協議ー</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な取組みを実施しており、今後も努力を続けて欲しい。 資格取得に関して生徒の取り組む意識を上げる。 資格取得に関して、年度ごと段階的に上位の資格を目指せるように支援する。 エコデレンスの取組みを本校の切り札にしてはどうか。 夜間中学との連携を進め、高齢者をターゲットに高校進学への壁の高さを下げる努力を。 1 年の出席率を改善すれば、退学率が低下する傾向は変わっていない。 <p>第 2 回：11 月 2 日（木） ー文化祭見学と学校経営計画の進捗状況についての協議ー</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な取組みを継続しており、先生方の尽力を感じる。 進路指導関係の生徒体験型の取組みが増加している。進路指導にかかわらず、体験型授業非常に良い試みである。大学でも体験型の授業が取り入れられている。 春の中学校訪問は、新入生の実態把握のためにより。生徒数増加のための中学校へのアピールは今後の課題である。 <p>第 3 回：1 月 25 日（木） ーH29 学校経営の総括と協議および H30 学校経営計画ー</p> <ul style="list-style-type: none"> 懲戒件数の少なさや退学について減少しているのはよい。少年鑑別所の見学や各種研修などが充実している。 学校自己診断の保護者の回答回収率については、今後も課題である。 夜間中学からの進学を受け入れるための取組みはさらに進めるべき、外国籍の生徒など指導に配慮が必要な生徒の対応なども考え、つながりを大切にすること。 学校での「スマホ使用」の指導は、活用を含め課題である。ぜひ検討されたい。 学校経営計画で、「自他の権利」を認めることについて入れているのはよい。 「生徒が来たい学校」づくりは、生徒の居場所づくりとともに推進することは大切。 卒業生のフォローアップの指導については進めるべき。 「～ができる」「生徒の視野を広げる活動」「生徒の居場所づくり」「クラブ活動等の生徒活動の充実」「学び続ける教員」「働き方改革」をキーワードに学校づくりをする。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎基本の知識・技能の習得と生徒の進路実現	(1) (2) 能力・適性・興味・関心に応じたアクティブ・ラーニング型の授業展開 (3) (4) 進路選択のサポートを通じたキャリア教育の充実 (5) 魅力ある学校創りと欠席・遅刻等の改善	(1) ・生徒の基礎学力向上にむけた「わかる授業」実践のため、アクティブ・ラーニング型の授業展開を興味・関心に応じて実施する。様々な学校との連携を行う ・生徒の理解度や個々のニーズを把握し、具体的な賞賛を伝えることで自己肯定感を育む (3) ・生徒のニーズに応じた、教科科目の選択や受講指導の実施 ・進路指導の充実のため、公共職業安定所等との連携や企業訪問による就職先の開拓 ・高校生の就職情報サイト等の新たな活用を検討 ・あらゆる機会を通じて、入学時からのキャリア教育の充実を図る (5) ・保護者との連絡体制・連携の強化を行うとともに、家庭訪問等において早期の対応を心がける ・保護者懇談会は勿論、機会を捉えて生徒面談を行い細やかな意思の疎通を図る	(1) ・様々なタイプの学校との相互交流等を年3回実施し、授業改善の工夫を行う ・観点別評価の共有・改善の実施 (3) ・卒業後の進路定着指導を実施 ・応募前職場見学会や企業訪問を積極的に実施（昨年度維持のべ40～50人前後を目標） ・進路決定率を前年度比2～4%増（H28年度末84.2%） (5) ・生徒・保護者への電話連絡・家庭訪問等を組織対応で行う ・出席率を前年度比3～5%増（昨年度約71%） ・総遅刻者数減少。（1限目の授業定着）（昨年度末4575人）	(1) ・他校も含めた研究授業、授業公開2回、他校の初任者研修の受入れ2回、支援学校への出前授業を1回実施し交流の工夫を続けた。(○) ・観点別評価についてはシラバスの改善にとどまる。(△) (3) ・就労先の企業訪問を実施。卒業生による進路講話も実施。(◎) ・応募前見学会については、希望者は教員付添の上100%実施。(○) ・中小企業同友会と連携して校内企業説明会体験や専門学校による職業体験講話など体験的活動を複数回実施した。(◎) ・進路決定率は92.0%(◎) (5) 12月末現在の出席率は80.1%で改善がみられる。遅刻率については横ばいあった。(年度末3810人)(○)
2 豊かな人間性の育成と共生社会の推進	(1) 円滑な人間関係を築くためのマナーや規範、人権意識の向上 (2) 安全安心な学校環境の整備と多様な学びの場を提供 (3) 生徒会活動・部活動の活性化	(1) ・登校時の正門前で「あいさつ運動」の継続と、全ての授業の開始・終了後に「起立・礼」を励行する ・身近な差別事象や人権問題を取り扱うことで意思の向上を図る ・薬物乱用防止教室、交通安全教育などは、具体的な内容を伝えることで充実を図る (2) ・正門前から玄関に至る緑化運動（四季の花植え）と冬季のイルミネーションでの生徒の迎え入れ ・正門周辺の外灯など避難訓練等の全体集合場所の環境整備に力を注ぐ ・スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実を図り、さらにSSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）の活用で教員と連携強化し、地域の福祉等外部組織との協働で「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用 ・学年団や分掌等、あらゆる場面での組織的対応の実践を通じ、効率的な働き方の検討を進める (3) ・生徒会活動・部活動の活性化 ・生徒会活動で取組む清掃活動の参加者の輪を広げ、普段の清掃に繋げる ・フリースクール等、地域教育として高大接続等も併せて社会教育に関わる人材の活用を図る ・研修および研究授業の充実で「学び続ける教員」育成 ・生徒会活動を通じ、学校の中核となる生徒を育成し、文化祭等の学校行事を活性化するため、保護者等にサポーターとして参画を促す	(1) ・授業開始、終了時の挨拶実施の励行と定着を、年間の授業観察を通じ、指導・助言する ・学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問で肯定的な回答率5%向上（昨年度は53%） (2) ・教職員や保護者に限らず、多くの生徒の参加を促し、イルミネーションの点検・拡充 ・避難訓練集合場所の照度点検を含め整備を学校薬剤師と連携して改善 ・「校内ケース会議」の活動定着を教職員全体で共有 ・SSW、地域の就学支援組織等の外部機関との連携。保護者の協力体制による家庭環境の充実で進路実現 (3) ・部活動参加者の維持（昨年度のべ96.8%参加、のべ122人） ・生徒会の清掃を含め、地域との活動を活性化 ・他校への授業等の見学 (4) ・文化祭での生徒の主体的活動の充実と保護者の参加者数の増加（H28年度保護者参加者58名）	(1) ・生徒の実態に寄り添った支援が年間を通してできた。学校教育自己診断では、「学校のきまり」についての理解は肯定的であるが、生徒と教員の「きまりを守っている」の意識に差がみられる。(○) ・人権に関する設問は50%強にとどまり昨年比較で横ばい。(△) (2) ・校門前のイルミネーションは補修も含め実施。(○) ・照度点検については、工場などを新たに実施。教員・生徒協力のもとに壁面塗装などの工夫をした。(△) ・SSW・SCを有機的につないだ「校内ケース会議」の取組みが進み、登校の支援や進路決定に至る支援に成果が上がっている。(◎) ・生徒支援の体制強化について、PTを立ち上げ検討を加えている。(○) (3) ・部活動の参加者は、のべ122名。「実定総体」の参加や「生徒秋季発表大会」への参加はほぼ例年通り。(○) ・支援学校の出前授業等は実施。他校の見学は1校2名。他校の見学受入れは2校8名。(○) ・文化祭の保護者参加率は減。(△) (H29年度保護者参加者31名)
3 人材育成と学校運営体制の再構築	(1) 開かれた学校づくりをめざした取組み (2) 「ものづくり体験学習」・オープンキャンパス等を通じた人材育成	(1) ・秋季発表大会・産業教育フェア等への積極的参加を教員全体で取組み、本校の教育活動の成果を地域に広報 ・エコデンレースの開催に向け、次世代の事務局づくりを意識した運営体制を教員全体で強化する ・地域の清掃活動への参加、校内での美化運動と学校周辺の清掃活動などの定着 ・文化祭等の学校行事への近隣住民・中学校教員を招き、学校の状況を知らせるとともに意見を参考にして今後の学校運営に資する (2) ・夏季休業期間を利用して地域の児童・生徒、保護者・小中学校教員対象の「ものづくり体験学習」を実施する ・全日制教員と定時制教員のコラボで協力して進める ・冬季学校説明会を「ものづくり」を主体に全員で実施 ・普通科、工業科の教員の連携を図り、全校一斉退庁日などの活用により、業務の効率化を安全衛生委員会等で構築する。その際に、産業医の助言を活用し、改善する	(1) ・地元中学をはじめ地域との連携を行う ・エコデンレースの成功をめざす ・生徒と教職員による、昨年度と同様の年10回程度の地域清掃の定着を図る ・文化祭等の学校行事への外部参加者の維持（昨年70人程度） (2) ・「ものづくり体験教室」参加者数の増加（昨年度36名） ・冬季学校説明会参加者の増加（昨年度11名） ・協力体制充実と同僚性の構築 ・定時退庁等の周知徹底を図り働き方に対して自覚を促す	(1) ・産業教育フェアで「エコデンレース」の発表、秋季発表大会では生徒の作品発表など学校の成果発表を行った。(○) ・「エコデンレース」の運営を全校体制で行った。泉大津市の協力も得ながら、周辺中学校等への広報を強化し参加者約840名を数えた。(◎) ・地域清掃は例年通りの実施(○) ・地域住民の行事参加は不調であった。(34名の参加)(△) (2) ・夏季に実施の「ものづくり体験教室」は定員40名で満員となった。冬季の学校説明会と「ものづくり体験教室」は8名の参加者(△) ・火曜日を定時退庁日として、職員退庁に努めた。(○)